

## せん孔細菌病 枝病斑の切除と対策

昨年、広域的にせん孔細菌病が発生し、越冬菌も多いと予想されます。また、4月中旬の降雨・強風などの気象経過から、今後の感染拡大・多発が心配されます。せん孔細菌病発生園では、多発地帯を中心に枝病斑の除去が必須作業となります。せん孔細菌病の春型枝病斑は開花期から確認されますが、枝病斑をそのまま放置しておくと感染拡大につながります。春季に枝病斑の除去することで、夏季の果実感染が軽減されます。

### ポイント

- ① …… 「枯れ枝の除去」と「春型枝病斑の除去」 園外への持ち出し
- ② …… 重点防除時期の薬剤散布は、10日間隔で必ず降雨前に実施  
詳細は、もも・ネクタリン特報 No.2を参照ください
- ③ …… SSの散布は風圧を抑えて、ゆっくりと丁寧に  
必要以上にSSの圧力を上げずに、樹全体に薬液がかかる程度の圧力で丁寧な散布をこころがけましょう。
- ④ …… 樹上灌水は可能な範囲で止めましょう  
樹上散水によって、せん孔細菌病の感染が広がる恐れがあります。ただし、玉肥大への影響や灌水を必要とする品目もありますので、ご注意ください。

① 枝の先端が枯れる症状



② 春型枝病斑



③ 枝の中間部の芽が枯れる症状

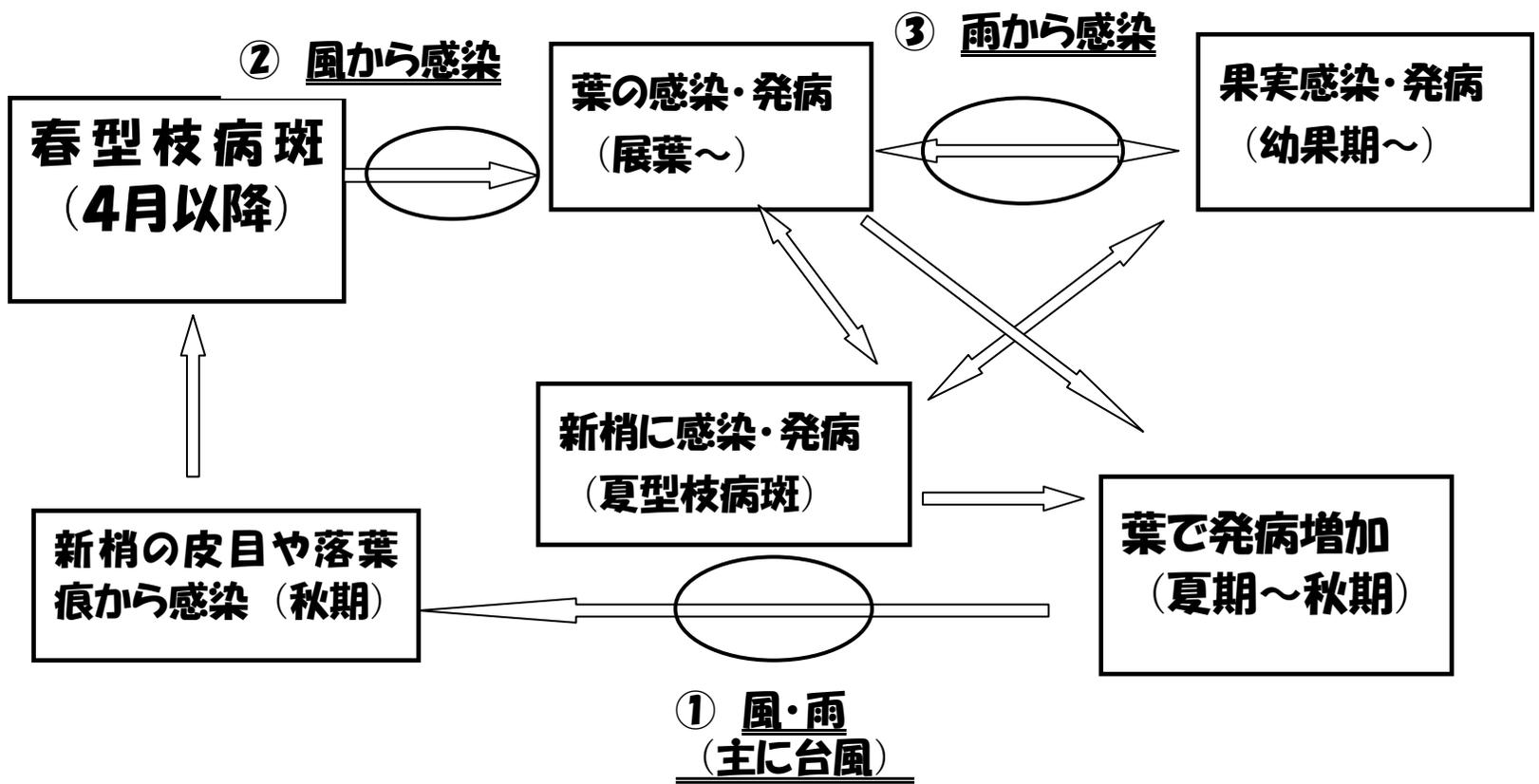


裏面も必ずご覧ください。

# せん孔細菌病

# 発生生態

○・・・重点防除ポイント



【生育適温】 繁殖可能：10～35℃ 適温：25℃前後

【潜伏期間（果実）】 幼果：2～3週間、ピンポン玉大：40日以上

【潜伏期間（新梢葉）】 16℃：16日、20℃：9日、25℃：4～5日、30℃：8日

【発病に影響を及ぼす気象要因】

葉：最大風速10m以上、降水量5mm以上

果実：最大風速5m以上、降水量20mm以上

【感染（発病）時期の判別】



「早期感染」



「梅雨期～の感染」